研究構想図

令和8年度　西東京市立東伏見小学校　校内研究

今日的な課題

○多様な人々と協働しながら社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、よりよい社会の創り手となることができるようにすることが求められている。

学校教育目標

○心もからだも健康な子ども
◎よく考え実行する子ども
○なかよくはげましあう子ども

児童の実態

○めあてをもとに、見通しをもって、問題解決的に学習を進める工夫を充実させる必要がある。
○子どもの問題意識や目的意識を高め、すすんで学ぶ力を育てる必要がある。

研究主題

社会とつながり未来を創る子どもの育成

研究の仮説

主に社会科の学習において、社会的事象の見方・考え方を働かせながら、主体的に問いを追究する学習を通して、社会生活の理解を深め、社会的事象の特色や相互の関連、意味を対話的に考えたり、多角的に考えたりして、社会の一員として自分の関わり方を選択・判断したり、社会の発展を考えたりするとともに、主に生活科の学習において、身近な生活に関わる見方・考え方を働かせながら、自らの思いや願いを明確にして、身近な生活の気付きを深め、自分自身や自分の生活について考え表現して、すすんで学んだり、生活を豊かにしたりすることで、「社会とつながり未来を創る子ども」が育つであろう。

目指す子ども像

	低学年	第３学年	第４学年	第５学年	第６学年
知識・技能	・自分の生活について、身近な人・物・事とすすんで関わり、自分とのつながりに気付く子ども。	・地域の様子について、人々が連携・協力し合っていることを調べ、よりよい町づくりの視点から共感的に理解している子ども。	・東京都の様子について、人々が連携・協力し合っていることを調べ、安全でより豊かな生活を重視する視点から共感的に理解している子ども。	・国土や産業の様子について、様々な人々が相互に関係し合っていることを調べ、持続可能な環境を保持・発展させる視点から共感的に理解している子ども。	・政治や歴史、外国との関わりについて、様々な人々が相互に関係し合っていることを調べ、多様な価値を尊重する視点から共感的に理解している子ども。
思考・判断・表現	・身近な人・物・事と自分との関わりを捉え、自分らしく表現できる子ども。	・見いだした問題を解決する活動を通して、社会的事象の特色や意味を考え、自分の言葉で表現できる子ども。	・見いだした問題を解決する活動を通して、社会的事象の特色や意味を考え、自分との関わりから表現できる子ども。	・見いだした問題を解決する活動を通して、社会的事象の特色や意味を多角的に考え、多様な立場から表現できる子ども。	・見いだした問題を解決する活動を通して、社会的事象の特色や意味を多角的に考え、相互のつながりから表現できる子ども。
主体的に学習に取り組む態度	・身近な人・物・事に自ら働きかけ、自分の生活をよりよくしようとする子ども。	・よりよい地域社会を創るためにこれからも関わり続けようとする子ども。	・よりよい地域社会を創るためにこれからも関わり続けようとする子ども。	・よりよい社会のあり方を考えたり、自らもよりよい社会を創ろうとしたりする子ども。	・よりよい社会のあり方を考えたり、自らもよりよい社会を創ろうとしたりする子ども。